県立広島大学保健福祉学部看護学科「学生生活通信」　～保護者の皆さまと学科をつなぐほっとライン～

しまなみだより

第 15 号　2020 年 10 月発行

秋晴れの候，皆様におかれましては，ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

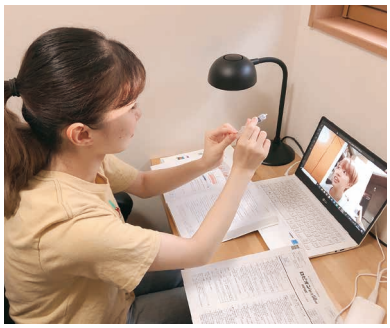
平素より本学の教育にご理解とご協力を頂きありがとうございます。2019 年末に中国から流行した新型コロナウイルス感染症は，瞬く間に世界中に広がり，国内でも急速に拡大しました。その影響は人々の生活に多大な影響を及ぼし，本学の教育活動も例外ではありませんでした。これまでに経験のない新たな学修方法も始まりましたが，学生のみなさんが講義・実習に真摯に取り組んでいる姿は，私たち教職員も励まされています。

今号では，令和 2 年度前期の学生生活の様子をお知らせします。

医療従事者等の皆様へ敬意と感謝の意を表すライトアップ

前期オンライン授業紹介

２年生の前期はすべてオンライン授業で行いました。１年生の時と比べてより専門的な内容の授業が増えました。特に，診療に伴う看護方法論の授業では新型コロナウイルスの影響で学校内に入ることができないため，各自宅に注射器や点滴ルートなどが送られ，実際に物品に触れながら講義を受けました。初めてのオンライン授業だったため，最初は戸惑うことが多く講義を行うシステムに入ることができない生徒がいたり，途中で映像や音声が乱れて聞き取りにくい部分があったりして新しい授業形式に慣れるのに大変でした。しかし，学生同士でカメラをオンにしてコミュニケーションをとることで不安や孤独感を和らげたり，分からなかったところを先生に質問してその回答を全員で共有したりして，講義を受け課題をやり遂げました。学校で行う演習とは違う形での講義となりましたが，１人ひとりが苦戦しながらも自分たちなりに積極的に講義に取り組むことができました。（2 年次生　穐山美侑）



オンライン授業の様子

卒業研究に取り組む様子

看護学科 4 年生の前期は精神看護実習・在宅看護実習・小児看護実習が予定されていましたが，今回はオンラインでの実習となりました。オンライン実習は Teams を用いて行われ，グループ内での話し合いや担当教員からレポートや課題の添削・指導を行ってもらい学修を行いました。友人と直接話すことはできませんでしたが，わからないことがあれば友人同士で通話したりすることで交流を行っていました。また，週に 1 回行う卒業研究のゼミ，就職活動・就職試験も同時に行っていました。

２月にある国家試験に向けて模試の自宅受験や，テキストを使った総復習を行なっています。私はまだ本格的にスタートできていませんが，国家試験問題を毎日上げている SNS を活用し，『国家試験問題を毎日解く』ということを目標に掲げ，継続して行なっています。この情勢に臨機応変に対応しながら後期も学修を進めていきたいと考えています。

（4 年次生　森原優実）

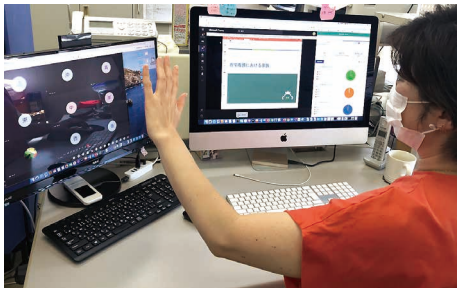
いつもと違う授業風景

私が担当した在宅看護論のオンライン授業の様子をご紹介します。写真は，私が２つの画面を見ながら授業をしているところです。左は授業に参加している学生のアイコンが並び，右は授業で使う資料が表示されています。いつもなら，学生の側まで歩いて行き，質問するところですが，今回はチャットに質問を打ち込みます。すると，学生は私から届いた質問に回答します。学生の回答は，オンライン上で集計され，円グラフとなって表示されます。このグラフを学生と一緒

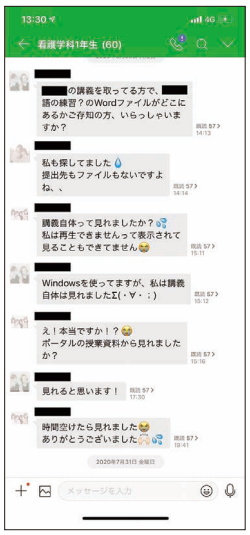
に眺めていると，学生から「みんなと一緒に授業に参加している感じになる」と嬉しい声が聞かれました。その他にも，”手を挙げる“というオンライン上でのパフォーマンス機能があります。私の問いかけに賛同してくれる学生は次々と挙手してくれます。この機能は，教員の私も，学生の顔を見ることはできないけれど，学生と一緒の空間にいるような錯覚を覚えました。

在宅看護論の授業では，学生の皆さんに療養者を“患者”と捉えるのではなく，“疾患とともに地域で暮らす生活者”として捉えることの大切さを伝えています。

（安田千香）



オンライン授業の様子



学生がコミュニケーションをとっている場面

登校できない1年生のために SNSによるコミュニケーションの場を作りました

新型コロナウイルスの感染拡大により，令和２年度の県立広島大学の入学式は中止となりました。そればかりか，前期の授業が全てオンライン授業となりました。例年なら１年生同士で相談しながら新学期を送るのですが，今年はそれができません。不安の多い１年生のために，コミュニケーションをとることができる場を SNS を使って作りました。教員も緊急連絡用に活用しているアプリです。教員が管理者となって看護学科１年生のグループを作り，参加方法を学内ポータルを使って説明しました。参加には管理者の承認が必要となるため，部外者が加わることはできません。はじめは恐る恐るだった学生も，少しずつコミュニケーションをとるようになり，１ヶ月も経てばいろいろ助け合うようになっていました。全体でのやりとりの中から，個人的な会話に発展した学生もいたようで，対面できない状況での友達作りに一役買ったのではないかと感じています。

（山中道代）

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

新任教員紹介

地域看護領域　准教授　俵 志江

４月から地域看護領域で公衆衛生看護を担当しています。

本学に就業して，初めてのオンライン授業・実習に少し慣れ，早や後期を迎えました。キャンパスに学生の皆さんの姿を見る日が来るのを楽しみに待っています!!今後ともよろしくお願いいたします。

在宅看護領域　講師　加利川 真理

先生方や職員の皆様，学生さんに日々支えられながら，入職して４カ月が経とうとしています。コロナ禍の状況で，先が見えないことも多いですが，一歩ずつ努力していきたいと思っておりますので，どうぞよろしくお願いいたします。

慢性期看護領域　助手　滝口 里美

在宅医療を受けながら生活をしている方々と，その家族を，医療・福祉・教育など多職種と連携し，支援していく活動をしたいと考えています。

看護学科「学生生活通信」についてご意見，ご感想などお寄せください。

メールアドレス　大学ホームページ

QR コードをご利用ではない方は，以下を入力してご使用ください。

nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/nursing/

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima
〒723-0053 広島県三原市学園町 1-1
TEL 0848-60-1120（代表）
FAX 0848-60-1134（代表）
発行：県立広島大学保健福祉学部看護学科 広報係